

ま
ち
の
絆
発
信[illegible]

シジウムのは、受賞した50団体の中から3団体が活動報告を行った。北海道・東北のブロック賞で、離島・振興に挑む「とびしま」(山形県酒田市)の本間当代表は、伝統や文化を「0次産業」と呼び継承する重要と

や食品加工、カフェなどにも取り組み雇用をつくりたいと意欲を示した。

駆使した工夫を披露。農家がパソコンで発注状況を見て出荷し効率のいい販売につなげていると説明した。

後半は「未来を開く手掛かりは」をテーマにパネル討論を行い、大賞・準大賞

受賞3団体活

の3体の代表と選挙委員が参加。大賀の「なかおか島へいり海社」（岡山県笠岡へいり海社）理事長は、行政機関がない所に手を差し伸べる「第2市役所」として活動していると説明。

準大賀の「沼恵テラス商店街」（新潟市を運営する）田村寛（テラスオフィス社）社長は、再生に向け土地と建物を買い取った埋田を「なかおかにのきわいぶりが頭を

白い形で人が集まり楽しい空間になれば」と話した。

「岡崎まちさそびの会」（愛知県岡崎市）の堺康裕・世話人は、商店主が客に技術的な人を、無料で披露し、偉大賞を受けた活動を紹介。「楽しい時間を共有し絆が強まる」といふ仲間をつくり地域全体で伸びよとの意識ができた」と成果を話した。

受賞団体の取り組みに選

大大学院教授の地域づくりは「一律のサードスペースだではつまらない」と指摘。地元の人々が魅力ある生活を、どうつくりだすかに期待したいと述べた。

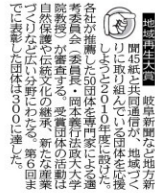
タレントの大桃美代子さんは「活動に共通しているのは、ここが好きだから何とかなしたい」との思い」と評。

副藤茂臣、日本総合研究所
上席主任研究員は、中山間

地の移住も増えている。こうした人たちの力を活用するが、これが重要と提言した。

沼澤渡子「日大教授は、合併に基いて行政の手が地域に届くまでに行っている」と指摘。受賞団体は「課題と魅力を開き起こしており」「地道な活動がべりのベースにな活動だ」とも分析した。

人口減少で環境は厳しい。しかし、嶋本氏は「できるんだ」という気持ちで取り組む」と意欲を表明。田村氏も自分のまちを「すくすく」と積極的に声を上げていきたい」と思いを込めた。



詳細は「47NEWS」で
インターネットのニュースサイ
ト「47NEWS」に「地域再生サ
イ」の特設ページを設けました。
今回のシンポジウムで行われた活
動報告や、パネル討論の詳細を速
報しています。第6回までに表
計300団体の活動内容などを
詳しい紹介も「属」になれます。

[illegible]

10年ほど前、父親が海外に亡くなった。それから、最初の海外へ身寄りが来た。それは、東京の都立大で、文芸部で活動していた。地方の鳥取県大野郡の町に生まれて、東京の都立大で文芸部で活動していた。父が海外に亡くなった。それから、最初の海外へ身寄りが来た。それは、東京の都立大で、文芸部で活動していた。地方の鳥取県大野郡の町に生まれて、東京の都立大で文芸部で活動していた。

[illegible]